

日退教発20 - 27号

2020年10月6日

(FAX 2枚)

日本退職教職員協議会  
各単会 会長 様

日本退職教職員協議会  
会長 竹田邦明

日本学術会議への人事介入に抗議する取り組みについて

10月1日の学術会議総会で、菅政権が、日本学術会員の推薦した会員候補のうち6人の任命を拒否していることが判明しました。特定秘密保護法や安保法制に反対等、安倍・菅政権に批判的なものへの強権的な排除措置といえます。こうした措置は、これまで軍事研究を否定する日本学術会議への不法な介入であり、安倍政権を継承して、戦争ができる国づくりへ科学者を振り向けさせる行為です。

日本学術会議は、これまでに二度、科学者が戦争に協力した反省から「戦争目的の軍事研究はしない」とする声明を決議してきました。そしてさらに2017年、改めて、「これまでの二つの声明を継承する」「安全保障技術研究推進制度について、政府による研究への介入が著しく、問題が多い」とする声明を発しています。

菅政権の過去に例のない露骨な人事介入は、憲法で保障された学問の自由と表現の自由、日本学術会議の自立性・独立性を侵害する暴挙です。

憲法にうたわれている平和主義に逆行し、武器輸出の奨励と軍需産業の育成にひた走る姿勢・行為そのものといえます。

平和フォーラムは別紙のとおり事務局長名で「見解」を出して、学問の自由・表現の自由、学術会議の独立性を脅かす菅政権に対する抗議を行っています。

日退教は菅政権に対する抗議行動として、下記の要領で「抗議はがき」を出す取り組みを行っています。

コロナ禍の中、様々な配慮の上行動されますよう取り組みを案内します。

記

- 宛先 〒100-8968 東京都千代田区永田町1-6-1 内閣官房  
内閣総理大臣 菅 義偉 様
- はがき 各単会ではがきを購入の上、可能な限り単会・支部、会員から上記宛てに出す。
- 抗議内容 以下の菅政権の日本学術会議への介入に対する抗議
  - ①日本学術会議会員候補の任命拒否による人事への介入
  - ②学問の自由・表現の自由への介入
  - ③日本学術会議の自立性・独立性への介入
  - ④日本学術会議の中立性への介入

以上